**平成30年度全国普通科高等学校長会　教育課程研究委員会アンケート**

|  |
| --- |
| **◎研究協議主題**　　「新学習指導要領に向けた教育課程の研究」**○ 研究協議主題に添った３つの柱立て**① 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に関する取組と課題　　② 英語の４技能の育成と評価に関する取組と課題 ③ タブレット等のＩＣＴを活用した授業の取組と課題**○「高校生のための学びの基礎診断」に関する調査** |

　各問の回答については、全国高等学校長協会のホームページからダウンロードした「アンケート回答用紙」（エクセルファイル）に入力してください。（注：E-mail添付ファイルにて回答する前に、調査対象高等学校長あての依頼文に記載した「６　回答の方法」により、ファイル名を変更してください。）

　**問１**と**問２**は該当する符号を一つ選び、**問３～問６**の「複数回答可」は回答用紙の該当する符号の箇所（セル）に**半角数字の「１」**を入力してください。

　「その他」の回答や「自由記載」については、回答用紙に**文字**をご記入ください。

**１　学校に関する調査**

**問１**　貴校は、次のうちどれに当てはまりますか。

（１）　設置者

　　ア　国

　　イ　都道府県

　　ウ　市町村

　　エ　学校法人等（私学）

　　オ　その他（　　　　　）

（２）　課程

ア　全日制普通科

イ　定時制普通科

ウ　通信制普通科

エ　全日制普通科と定時制普通科併設

オ　全日制普通科と定時制普通科と通信制普通科併設

カ　全日制普通科と専門学科または総合学科併設

キ　定時制普通科と専門学科または総合学科併設

ク　その他（　　　　　）

**問２**　本年度の最終学年（年次）での、大学・短大を合わせた進学希望率はどの位ですか。　　　ア　90％以上

イ　70％以上～90％未満

ウ　50％以上～70％未満

エ　30％以上～50％未満

オ　30％未満

**２　先進的あるいは特色ある教育課程の実施状況について**

**問３**　「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に関する取組と課題について

（１）　「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について、貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）

ア　教育課程編成

イ　授業展開（特色ある授業等）

ウ　教員の指導力向上のための教員研修

エ　教員の指導力向上のための外部人材の活用

オ　校内組織体制の整備

カ　施設設備の整備

キ　ＩＣＴ活用

ク　評価（授業評価・学習評価等）

ケ　取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法

コ　特に工夫していない

サ　その他（→具体的な取組の内容を（２）でお答えください。）

（２）　（１）で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号ととも

にお答えください。（回答は自由記載）

（３）　「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

**問４**　「英語の４技能の育成と評価」に関する取組と課題について

（１）　「英語の４技能の育成と評価」に関する取組と課題について、貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）

ア　教育課程編成

イ　授業展開（特色ある授業等）

ウ　４技能の育成と評価に関する教員研修

エ　評価（授業評価・学習評価等）

オ　現在の民間検定試験の利活用

カ　校内組織体制の整備

キ　施設設備の整備

ク　外部機関や大学・事業所等との連携

ケ　予算編成の工夫等

コ　取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法

サ　特に工夫していない

シ　その他（→具体的な取組の内容を（２）でお答えください。）

（２）　（１）で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号ととも

にお答えください。（回答は自由記載）

（３）　「英語の４技能の育成と評価」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

**問５**　「タブレット等のＩＣＴを活用した授業」の取組と課題について

（１）　「タブレット等のＩＣＴを活用した授業」について、貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）

ア　教育課程編成

イ　授業展開（特色ある授業等）

ウ　教員の指導力向上のための教員研修

エ　教員の指導力向上のための外部人材の活用

オ　校内組織体制の整備

カ　施設設備の整備

キ　予算編成の工夫等

ク　評価（授業評価・学習評価等）

ケ　取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法

コ　特に工夫していない

サ　その他（→具体的な取組の内容を（２）でお答えください。）

（２）　（１）で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号ととも

にお答えください。（回答は自由記載）

（３）　「タブレット等のＩＣＴを活用した授業」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

**問６**「高校生のための学びの基礎診断」について

（１）　現時点において、基礎学力を測定する手立てとして、貴校で活用しているものをお答えください。（「オ」以外は複数回答可）

　　　ア　学校独自の測定ツール

　　　イ　都道府県等独自の測定ツール

　　　ウ　民間業者の測定ツール

エ　その他の測定ツール（　　　　）

オ　活用していない

（２）　（１）において「活用している（ア、イ、ウ、エ）」とお答えいただいた場合のみ、以下の①、②、③にお答えください。

①　貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）

ア　義務教育段階における学習内容の定着度合いの測定、確実な習得

イ　高校生に求められる基礎学力の定着度合いの測定、確実な習得

ウ　学習意欲の喚起

エ　その他（→具体的な取組内容を②でお答えください。）

②　①で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号ととも

にお答えください。（回答は自由記載）

③　活用する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

（３）　現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」導入の成果について、どのようにお考えですか。

　　　ア　期待できると思う

　　　イ　期待できるとは思えない

　　　ウ　どちらともいえない

（４）　現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」の実施回数について、どのようにお考えですか。

　　　ア　１回

　　　イ　２回

　　　ウ　その他（　　　　）

エ　未定

（５）　現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」の実施時期について、どのようにお考えですか。（複数回答可）

　　　ア　１学年：４月から６月

　　　イ　１学年：７月から９月

　　　ウ　１学年：10月から12月

　　　エ　１学年：１月から３月

オ　２学年：４月から６月

　　　カ　２学年：７月から９月

　　　キ　２学年：10月から12月

　　　ク　２学年：１月から３月

ケ　その他（　　　　）

コ　未定

（６）　「高校生のための学びの基礎診断」の実施に関する文科省からの情報発信、活用方策、実施上の課題等、様々な観点からご意見をお聞かせください。

（回答は自由記載）

　　　（観点の例：最新情報の周知方策、参加形態、実施会場、都道府県等教育委員会の関与、学校教員の関与する運営内容や負担、業者毎に基本・標準タイプの出題内容・難易度が異なること、記述問題の公正な採点等、情報の管理、結果の利活用方策（生徒・学校・教育委員会等）、結果の副次的利用（就職・進学）の可能性、受験料、地域・経済的事情への対応など）

※　ご協力、誠にありがとうございました。